

医療情報ネットワークを介した肝疾患連携パスの構築

研究分担者：坂口 孝作 福山市民病院内科
研究協力者：藤田 篤史 福山市民病院 医療支援センター 地域医療連携科
研究協力者：堀 美幸 福山市民病院 医療支援センター 肝疾患相談室

研究要旨： 肝疾患診療では治療後も長期にわたるフォローアップが必要である。肝疾患診療、および治療後の長期フォローアップシステムの確立を目的として、既存の医療情報ネットワーク上で、かかりつけ医と肝疾患専門病院が相互に肝疾患患者の医療情報を共有できる肝疾患連携パスを構築した。当院と 4 かかりつけ医との間で、18 人の肝疾患患者をフォローアップしたが、肝疾患フォローアップシステムとして有用であることを確認した。医療情報ネットワークを介した肝疾患連携パスは、地域における肝疾患フォローアップ体制に大きく寄与するものであると考える。

A. 研究目的

ウイルス性肝炎患者は、かかりつけ医から肝疾患専門病院（肝疾患診療連携拠点病院）である当院に紹介され治療を受ける。治療後もかかりつけ医での診察と当院での診察を継続する。しかし、かかりつけ医と肝疾患専門病院である当院での診療状況、診察結果がリアルタイムに把握できないこともある。地域での肝疾患フォローアップ体制を考えると、かかりつけ医と肝疾患専門病院とで診療情報を共有でき、綿密に連携できる新たな仕組みが必要である。

そこで、かかりつけ医と肝疾患専門病院間で医療情報を共有し、診療状況をリアルタイムに相互に把握できるように、医療情報ネットワークを介した肝疾患連携パスを構築した。その運用について検討した。

B. 研究方法

広島県では広島県医師会が構築し運営しているひろしま医療情報ネットワーク（HM ネット）が運用されている。福山・府中医療圏では 86 医療機関が HM ネット（医療情報参照 86 医療機関、医療情報開示 9 医療機関）に参加している。従来、HM ネットでは医療情報開示医療機関の患者個々の診療デ

ータをかかりつけ医が閲覧することが可能であった（図 1）。

このネットワーク上に、かかりつけ医も診療データをアップロードし、相互の診療データを閲覧できるシステム（肝疾患連携パスシステム）を構築した。肝疾患連携パスのなかには、患者一覧画面（図 2）、診療記録画面（図 3）、服薬情報画面、情報交換画面が含まれ双方のデータを共有できる。

（倫理面への配慮）肝疾患患者には肝疾患連携パスシステムの主旨を説明し了解を得て当院で登録した。

図 1 . HM ネットを介した肝疾患連携パスシステム



図 2 . 肝疾患連携パス 患者一覧画面

通知	漢字氏名	カナ氏名	性別	年齢	最終更新日時	最終更新者	最終更新施設
<input type="checkbox"/>	★ 山田 太郎	ヤマダ タロウ	男性	26	2015/10/10 13:30	福山 太郎	福山病院
<input type="checkbox"/>	★ 広藤 花子	サトウ ハナコ	女性	45	2015/06/23 08:00	広藤 次郎	広島クリニック
<input type="checkbox"/>	★ 田中 次郎	タナカ ジロウ	男性	45	2015/06/22 17:59	沼藤 三郎	沼藤クリニック

図 3 . 肝疾患連携パス 診療記録画面

1年目	1回目	2回目	メモ
日付	2015/07/10	2015/10/10	あなたのみ ※あなたのみを「欄」に入力した内容を表示
受診機関	福山病院	広島クリニック	かかりつけ医のみ ※あなたのみを「欄」に入力した内容を表示
診療学的所見	<input type="checkbox"/> 異常あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 異常あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	診断・治療施設担当医のみ ※診断・治療施設担当医のみを「欄」に入力した内容を表示
採血	2015-07-10		
AST	111	1717	
ALT	222	1818	
γ-GTP	333	1919	
TP	444	2020	
Ab	555	2121	
T-Bil	666	2323	
AFP	777	2424	
PIVKA	888	2525	

C. 研究結果

肝疾患患者には肝疾患連携パスシステムの主旨を説明し了解を得て当院で登録した。2018年7月から運用開始し、2019年1月現在4かかりつけ医との間で計18人の肝疾患患者をフォローしている。かかりつけ医、あるいは肝疾患専門医に受診があった場合、双方のコンピュータ画面上に新たな受診があったことが通知される。かかりつけ医、当院に複数回受診がある患者では、当院受診の度にかかりつけ医の受診状況が確認できた。

D. 考察

現在は肝疾患連携パスを試験的に運用している段階であるが、肝疾患患者フォローアップシステムとしての有用性は確認できた。しかし、診療情報のアップロード方法や画面遷移速度などシステムとして問題もあり、これらを今後改良する予定である。

今回の取り組みは、地域のなかでかかり

つけ医と肝疾患専門病院が患者一人一人をフォローアップすることを可能とするもので、地域における肝疾患フォローアップ体制に大きく寄与するものであると考える。今後は広報活動等により参加医療機関を増やし、将来的には在宅医療を行う医療従事者への情報提供等の活用も視野に入れて、地域全体でフォローアップ体制の構築を目指していく。

E. 結論

かかりつけ医と肝疾患専門病院相互で医療情報を共有できる医療情報ネットワークを介した肝疾患連携パスを構築した。肝疾患フォローアップシステムとして有用であることを確認した。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 発表論文

なし

2. 学会発表

なし

3. その他

啓発資料

なし

啓発活動

* 坂口孝作： 肝疾患地域連携
- 肝疾患連携ネット -
2018年11月15日 広島県福山市
主催：レーバー・アーベント研究会

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし